

山人独吟

若山と云ふ

うれひもつて一人しくしく山^の初に暮る夏秋

を^い経つて飽かなく

いく十年^の新まねまゝとくくくに心うちさうし

山の露^の跡^のむ

朝夕のそぞろさうも^{やいふ}美^のまの^の一つと^のけ^のむか

もい^の草^のの^の跡^の

朝^のほそき^のいちもじせせり^の朝^のあ^の跡^のにしだれし^の秋^の

花せせりも

すすきより^のややしそ^のや^のに^の接み^の伏す^の刈安^の草^のの^の跡^の

のあひだま

むらむらに^のもりより^のゆらぐ^の山^の萩^のの^の盛^のりの^のと^のまに^の今

年^のあひ^のけり

咲きたる^の山^の萩^のむらに^のいま^のち^の暑^のき^の日^のの^のさし^の流^のれ

うぐいす^のき^のし^のき^の